

PowerVisorV3 for Jupiter

TLAS では次の手順でインストールを行ってください。

パッケージ名は次のとおりです。

ネットワーク版パワーバイザ

Hosting Edition 用(cdrom/NETWORK/TLAS/HOSTING/)

INST303H.RPM (パッケージ名: insttlas-3.0h-3) (BlueQuartz 画面)

PN301H.RPM (パッケージ名: pm-3.0-1) (upsd デーモン)

Workgroup Edition 用(cdrom/NETWORK/TLAS/WORK/)

INST303W.RPM (パッケージ名: insttlas-3.0w-3) (BlueQuartz 画面)

PN301W.RPM (パッケージ名: pm-3.0-1) (upsd デーモン)

シリアル版パワーバイザ

Hosting Edition 用(cdrom/PV3/TLAS/HOSTING/)

INST303H.RPM (パッケージ名: insttlas-3.0h-3) (BlueQuartz 画面)

PV301H.RPM (パッケージ名: pv-3.0-1) (upsd デーモン)

Workgroup Edition 用(cdrom/PV3/TLAS/WORK/)

INST303W.RPM (パッケージ名: insttlas-3.0w-3) (BlueQuartz 画面)

PV301W.RPM (パッケージ名: pv-3.0-1) (upsd デーモン)

- 1 . root でログインします。
- 2 . 2 つの .rpm ファイルをインストールします。
 - BlueQuartz の画面からインストールを行なう場合
 - 例: シリアル版パワーバイザ (Workgroup Edition 用)
 - ・「Turbo pkg」タグ画面のメニューから「サードパーティパッケージのインストール」を選択する。
 - ・アップロードにチェックして参照ボタンで INST303W.RPM ファイルを指定する。
 - ・「インストール準備を開始」ボタンでインストールしてください。
 - ・インストールが終了したら、つづけて PV301W.RPM ファイルをインストールしてください。
 - コンソールからインストールを行なう場合
 - 例: ネットワーク版パワーバイザ (Hosting Edition 用)


```
# mount -t cdfs /cdrom <RTN>
# cd /cdrom/NETWORK/TLAS/HOSTING/ <RTN>
# rpm -ihv INST303H.RPM <RTN>
# rpm -ihv PN301H.RPM <RTN>
```
- 3 . .rpm が正常にインストールできたら、OS を再起動します。
- 4 . Web から管理者でログインし、「サーバの管理」タグ画面のメニューから「UPS サービス」を選択してください。ライセンス画面が表示されるので、CD に記載されたシリアル番号とオーソライゼーションコードを入力し、「設定」ボタンを押します。ライセンスが OK であれば、動作条件設定画面に変わります。インストールガイドまたはオンラインマニュアルを参考にして、必要な設定を行ってください。
 - シリアルデバイスのデフォルトは /dev/ttyS1 (COM2) になっています。
 - 設定は再起動後に反映されます。

(*) 文中の製品名は各社の商標または登録商標です。